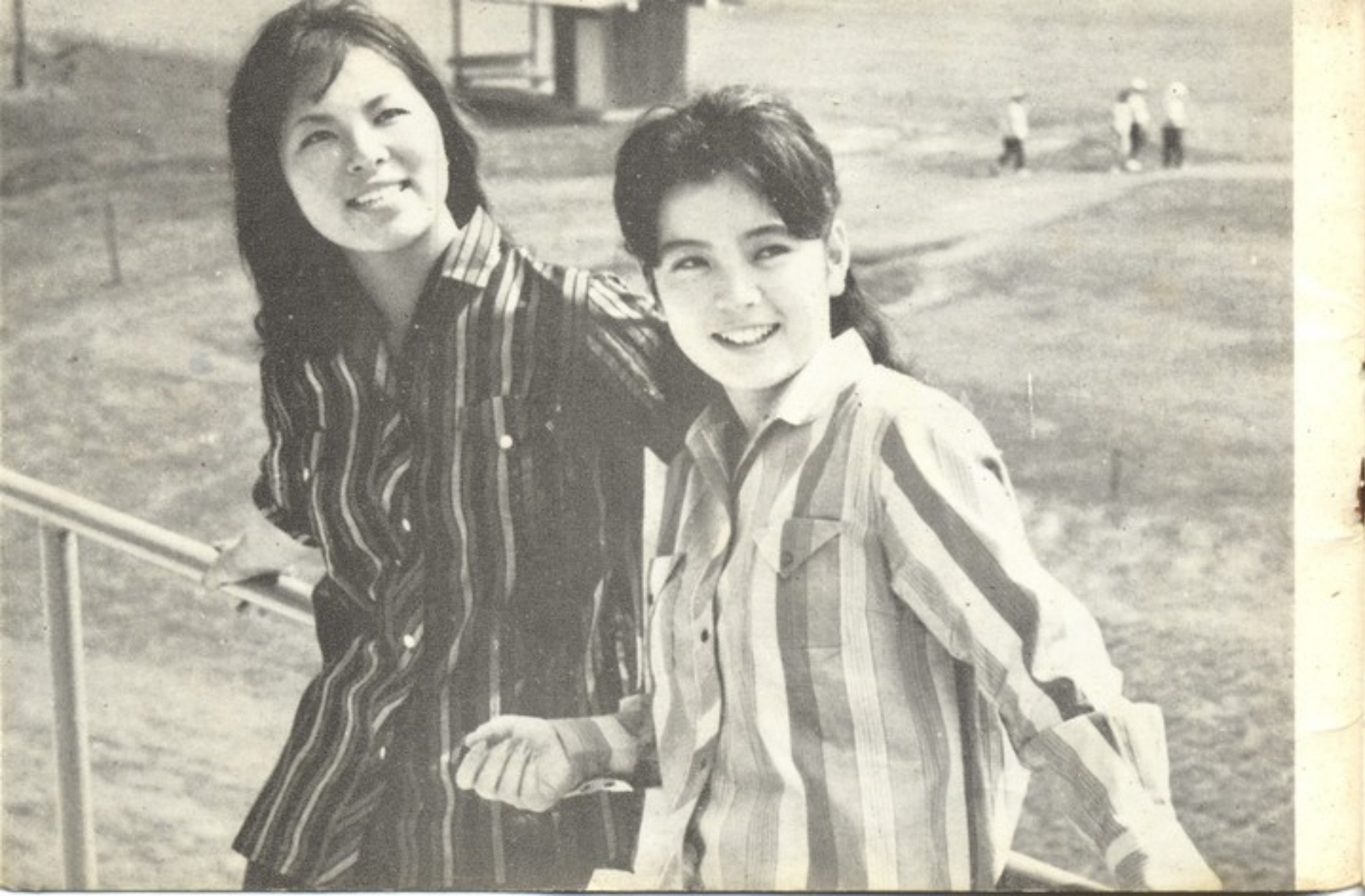


YASHICA

Rapide

ヤシカラピードの使い方







原寸 (18 × 24mm)

● 目 次 ●

ラピードとは……………	2
各部の名称は……………	4
見やすいファインダー……………	6
ピントを合せるには……………	7
適正露出は次の操作で……………	8
こんなときの露出に注意……………	12
光線の強い時 雪景色等……………	15
シャッターチャンス……………	16
フィルムの巻上げ方……………	17

夜のムードはフラッシュで……………	18
セルフタイマー撮影とは……………	20
生態写真を写すには……………	21
フィルムの枚数計……………	22
フィルムの入れ方……………	23
フィルムの巻き戻し方……………	27
上達のための7章……………	28
被写界深度表……………	32
その他の注意……………	33

Rapide

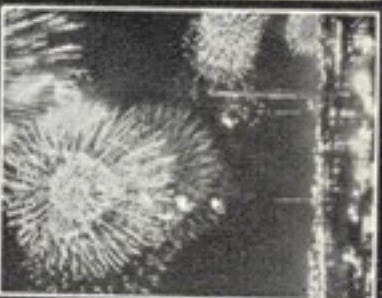
とは

ポケット用ラジオに似た可愛らしさと、メカニクな感じを持ったデザイン、スケッチでもするように気軽に写せるカメラ、しかもハーフサイズ（18×24ミリ）で全紙までも引伸せる小型カメラ、それがヤシカラピードです。

思わず目をみはるほどのしゃれたデザインとツートンカラーのラピードは、旅行に山登りに、街に、どんな時でもその場にふさわしいムードをかもしだして、人を惹き

つけるカメラです。

ラピードは、現代人の気持ちにぴったりとしたアクセサリーでもあり、実用性においても、いままでの35ミリフィルムで64枚もの撮影ができる上に、鋭い切れこみの準広角レンズヤシノン28ミリを始め露出計が内蔵されていますから頭を使うことなく気軽に撮影ができます。その他、普通のカメラと変らない性能を持ったラピードこそ、ハーフサイズカメラの決定機でもあります。



各部の名称





見 や す い ファインダー

ラビードのファインダーは明るく見やすい上に、ブライトフレームがついていますから、常に正しい視野を得ることができます。

ファインダーを覗くと右写真のようなフレーム(光像枠)が見えます。これをブライトフレームといって、この明るい光線の中が実際に写る画面です。ファインダーを覗いた時はこのフレームの内で構図をきめてください。なお、近距離撮影(2m・Pのしるしから)以下のときは下のフレームを使用して構図をきめるようにしてください。



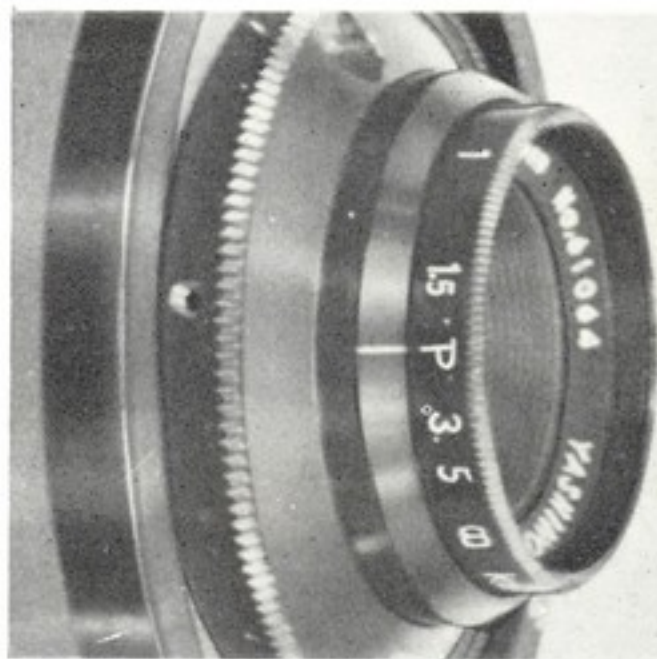
ピントは距離 目盛の調節で

▶ クローズアップの時は、Cの目盛を
ポートレートの場合は、Pの目盛を

ラビードのピント調節は、距離目盛の調節で行います。距離調節リングを廻して、その時の距離を焦点合せ指標に合せばよいのです。距離目盛にはC・1・1.5・P・3 5 ∞の7段階が刻まれています。

Cとは0.8mのことでクローズアップを意味していますから近距離撮影の時はこのCを用いてください。

Pとは2mのことでポートレートを意味していますから、人物撮影の時にはこれに合せばよいわけです。

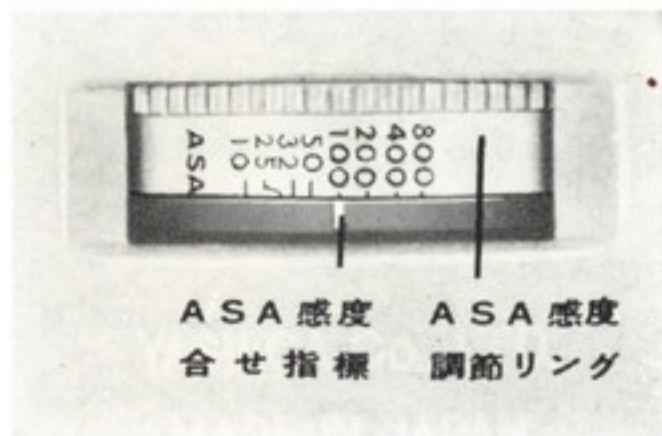


適正露出は次の操作で……

1

使用するフィルムの感度数字ASAを、ASA感度合せ指標に合せます。(リングを動かして)

ASA感度調節リングを廻して、使用フィルムのASA感度数字を、指標に合わせてください。これを忘れると適正露出が得られなくなります。(ASA感度とは、フィルムの感光度指数のことで、フィルム説明書に書いてある露光指数のことです。)



2

使いたいシャッター速度を合せ指標▲印に合わせるにはシャッター速度用調節ノブを動して行います
B（バルブ）とはシャッターボタンを押している間だけ開いていて、ボタンを離すとシャッターが閉ります。

YASHICA

シャッター速度
用調節ノブ

LV目盛
合せ窓

M X
CODAL-SV

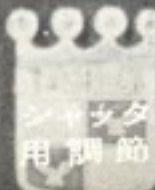
No.61064

YASHICA Japan
YASHINOM
1:2.8

28 4 56 B 11 16 22

500 250 125 60 30 15 8 4 2 1

SELF TIMER



シャッター速度用調節ノブ

シャッター速度

絞りシャッター指標合せ

絞りシンダリ

- ▶ 針が指した数字をLV目盛合せ窓に出します
(針が11と指したら 合せ窓に11をだします)

3

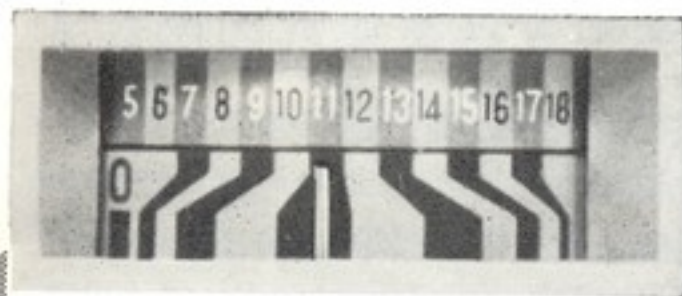
- ▶ メーターの針が指した数を読みとります。
露出計の受光面を向けるとメーターの針が動いて、適正な露出のLV数を示します。

4

- ▶ 絞りリングを廻してLV目盛合せ窓に適正な数を合せます。そうすれば正しい絞り値が決まりますから、シャッターを押します。



露出計表示窓



LV目盛合せ窓

▶ 絞りリングを廻しても、LV目盛合せ窓に適正な数字がないときは……………

- ▶ 適当なシャッター速度を合せて、絞り調節リングを廻してもLV目盛合せ窓に適正なLV数値がないときは、シャッター速度をもう少し遅くするか早くして再び調整してみてください。
- ▶ なお、シャッターと絞りは連動していませんから、露出が決ったあとにシャッター速度か絞り値の一方を変えたときは、それに応じたシャッター速度または絞り値を変えなければなりません。

こんなときの 露出に注意

ラピードの露出計は反射光式ですから、カメラを被写体に向ければ適正露出がわかります。しかし、被写体以外からの光や影などの影響や、特殊な場合によっては露出の違いがでてくる場合もあります。

このような時は、標準反射板や手のひら等を利用するとよい結果が得られます。次に露出の決め方で注意すべき被写体の例をあげてみました。

▶空が画面に入るとき

空が画面に入るとき、広い風景、明るい街路、水面、遠い山などでは一般に露出計の針が振れ過ぎます。このようなときはとにかく露出不足になりがちですから露出計をいくらか下に向けて、空からの光があまり入らないようにして計ります。

▶ポートレートの場合

人物に近寄って被写体の明るい部分、影の部分等を測り、その平均値を読みとって露出をきめてください。その時、自分の影やカメラの影が測定面に入らないよう、十分注意してください。

▶ 窓際の人物撮影では

窓際の人物撮影も露出の決定がむずかしいものです。カメラの位置が変わっても、人物の位置が少し移動しても露出計の針がすぐ変わります。窓の外景が主なら外景に合せ、人物が主ならば窓際によって人物の明るい所暗い所の平均値で行います。

▶ 逆光線撮影の場合は

逆光撮影では、直射光が露出計の窓に入ることがありますから気をつけてください。▶被写体（人物等）を明るく描写したい時は、被写体に近寄って背景の明るい光線が受光面に入らないよう注意して被写体そのものに露出を合せてください。▶被写体をシルエットに描写したい時は、明るい背景に露出を合せて撮影します。▶被写体も背景も両方を描写したいときは、被写体の影の部分の露出と背景の露出とを計り、その測定値の平均の露出を読みとり撮影してください。





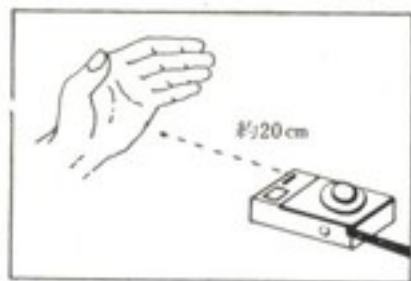
白バック・黒バックの人物は

白壁の前の黒い人物、雪景色の中の人物、黒い塀の前の人物、森の前の人物、暗い室内バックの人物などでは、普通の計り方ではとかく人物が露出不足や露出過度になってしまいます。こういう時は人物に近づいて露出をきめるか、もし近づけない時は、標準反射板か手のひらを利用して露出を計るようにしてください。

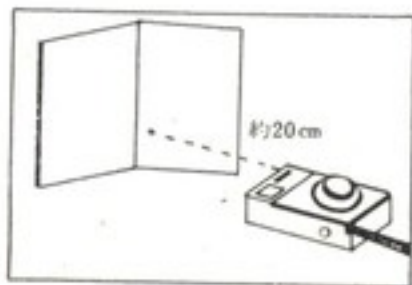


近寄れないときは……………

被写体とバックの光量の差がはげしく、しかも、被写体に近寄れないときは、近くにあるもので被写体と近似したものを測定して露出をきめるようにするか、標準反射板または手のひらを利用して露出をきめるようにしてください。



☆標準反射板とは、18%の反射率を持った光沢のない灰色の粗面紙ですが、市販をされている標準反射板をなるべく利用してください。



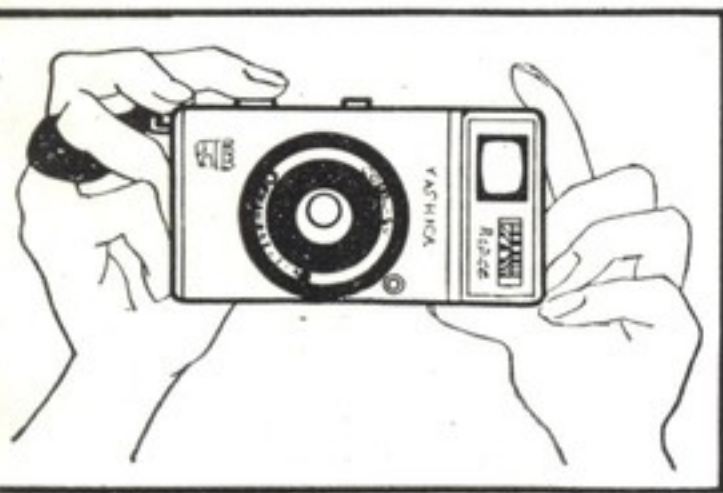
● 光線の強い場合・雪景色・真夏の海岸 などではフィルターを使用します

フィルターには、 $Y_2 \cdot O \cdot ND$ など用途によってそれぞれ別けられていますから、使い方によって選んでください。フィルターを使用した時は、当然露出も変わってきますから、フィルターについている露出倍数（ Y_2 なら2倍）だけ露出を変えなければなりません。ラピードでは、この調整を絞り目盛かシャッター速度で行います。

（例）いま、露出が絞り $F 16 \cdot \frac{1}{250}$ 秒とします。露出倍数が2倍のフィルターを使用したとすれば、その時の露出は絞り $F 11 \cdot \frac{1}{250}$ 秒か絞り $F 16 \cdot \frac{1}{125}$ 秒としなければなりません。ラピードなら絞りリングかシャッター速度調節リングの目盛を変更することで行なえばよいわけです。

シャッターチャンスを生かそう

ワインディング式



よい写真を作るには、シャッターチャンスこそ最も大切なことでしょう。このシャッターチャンスを生かすには、あなたの目と同時に常にシャッターの切れる状態にあることが必要です。これにはフィルムを巻いて常にシャッターをセットしておかねばなりません。

ラピードはセルフコッキング方式ですからフィルム巻上げレバーを引っぱっておけば、シャッターがセットされます。常に一枚撮影したら、シャッターをセットするよう心掛けてください。

フィルムの巻上げ方

ラビードのフィルム巻上げは、写真のように巻上用引き革のついた特殊レバーを、止まるまで引っばるとフィルムが巻かれ、シャッターがセットされるワインディング方式ですから、操作がきわめて簡単でしかも迅速にフィルムが巻けます。



夜のムードは
シンクロ撮影で



夜間撮影や昼間の補助光
として役立ちます。

ラピードのシンクロ接点を利用すれば、夜間や暗い室内での撮影を簡単に楽しむことができます。その外、日中の太陽光線の補助光として用いるデイトライトシンクロ法にも利用できます。太陽光線の弱い夕方やトップライトで顔にみにくい影の出る時などに用いると非常に効果的で、影の柔かい美しい写真をとることができます。

シンクロ接点は、MX接点切替え方式です。閃光電球のM球を使用するときは、切替えレバーをMにしてください。どのシャッタースピードにも同調します。また、F球やストロボを使用するときは切替えレバーをXにし、 $\frac{1}{100}$ 秒よりも遅いシャッターで撮影するようにしてください。



シンクロ接点

M球を使う時は接点をMに

F球・ストロボを使うにはXに



二人だけで写せる セルフタイマー

ラピードにはセルフタイマーが内蔵されていますから、恋人との散歩に、新婚旅行の記念にいつも水いらずの写真がとれます。

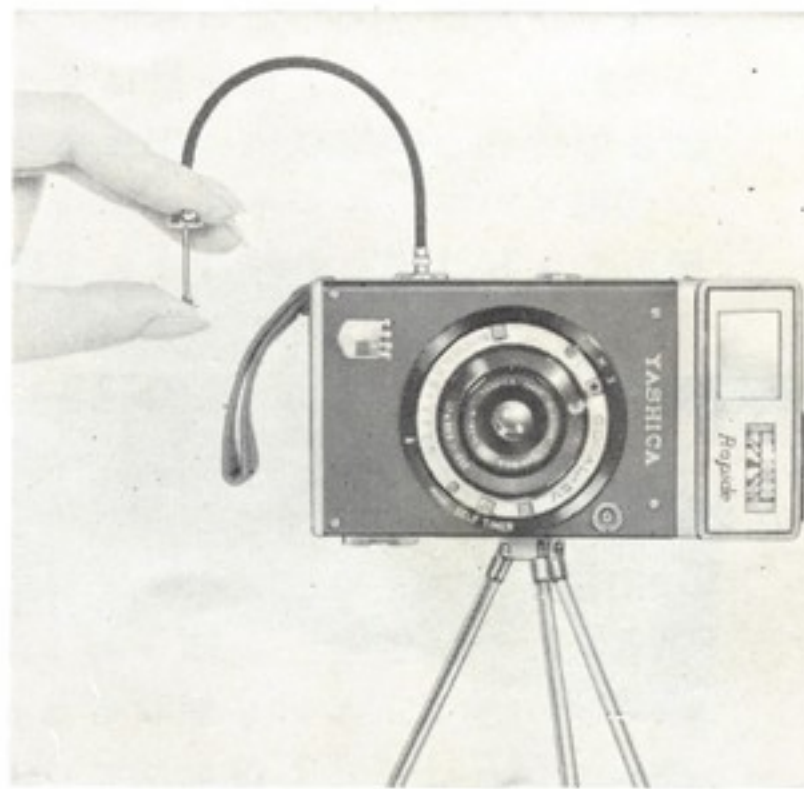
- ▶セルフタイマー撮影をするには……………
- シンクロ接点切替えレバーを X にして
 - セルフタイマーレバーを矢印の方へ下げてセットします。レバーはダブルテンション式ですからセット後は元の位置に戻ります
 - シャッターボタンを押せば、約8～9秒くらいしてシャッターが作動します。



生態写真等にはレリーズと三脚を

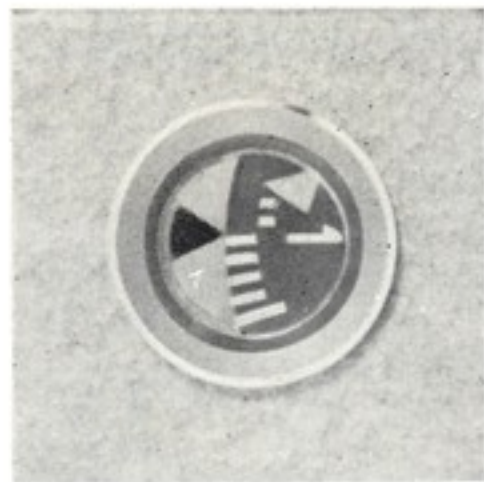
静物写真や生態写真または、夜間撮影で長い露出を与えるとき（ $\frac{1}{5}$ 秒以下のシャッター速度を使用する時など）には、レリーズと三脚を必ず使用して下さい。そうすればカメラブレすることなく撮影を行なうことができます。

レリーズを使用するときは、レリーズの先端をシャッターボタンの穴にネジこんでください。三脚はカメラ底部の三脚穴にネジ込めばよいのです。



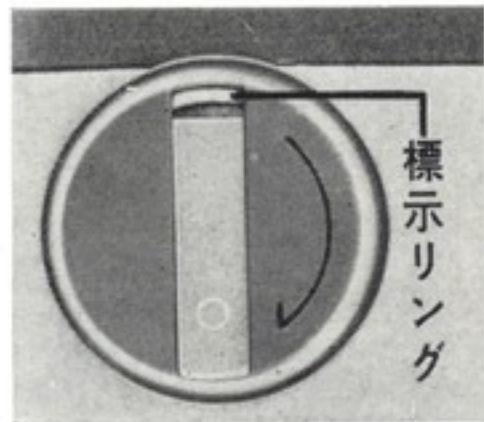
フィルム枚数計

枚数計はレバー1作動毎に撮影済枚数を示す順算式で、裏蓋を開くと自動的にスタート位置に戻る自動復元式です。枚数計は0～37まで黒、38～64まで緑色、65枚以後は赤と色別けされています。20枚撮りのフィルムを使った時は黒色の37枚まで撮影でき36枚撮りの時は赤まで撮影できます。

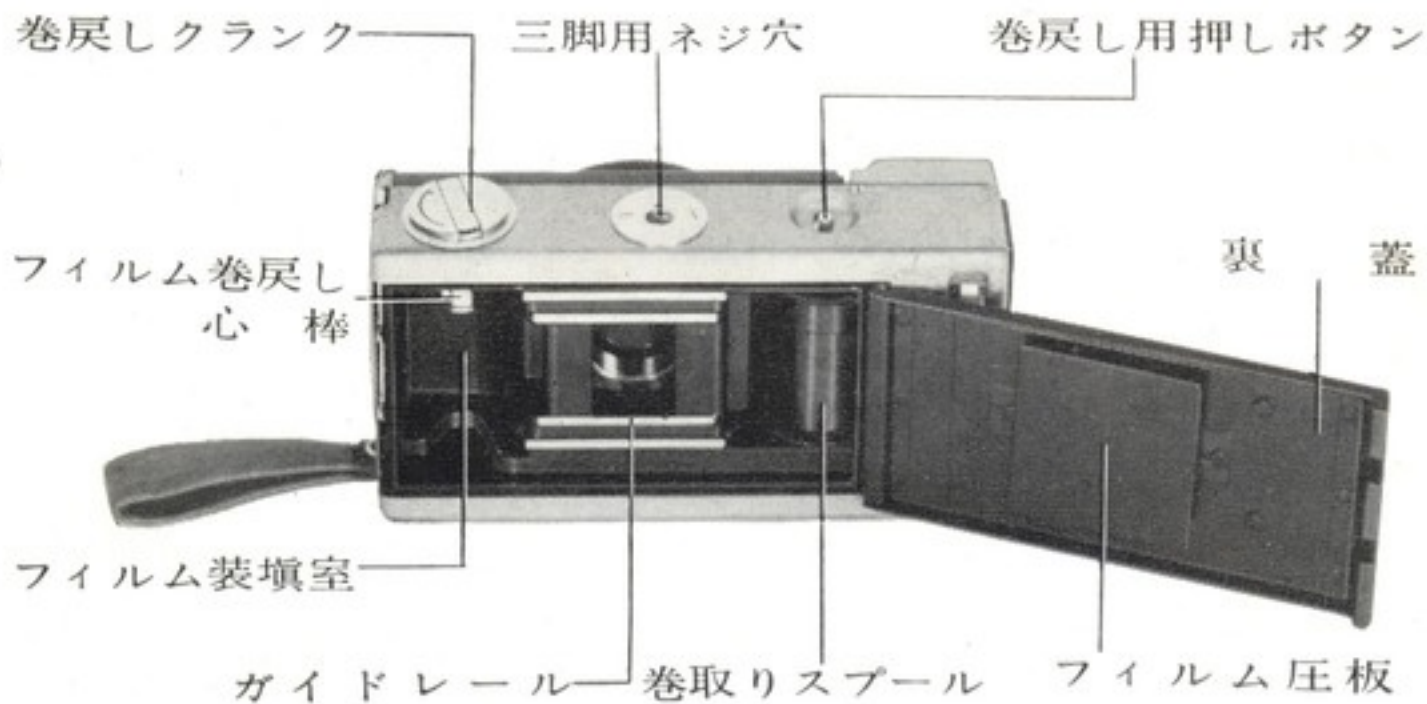


フィルム送り標示リング

フィルム巻戻しクランクの内側に、フィルム送り標示リングが見えます。これはフィルムが正しく送られているかどうか確かめるためのもので、レバーを引きフィルムを巻取ったとき、このカンが廻っていれば正しく送られているのです。

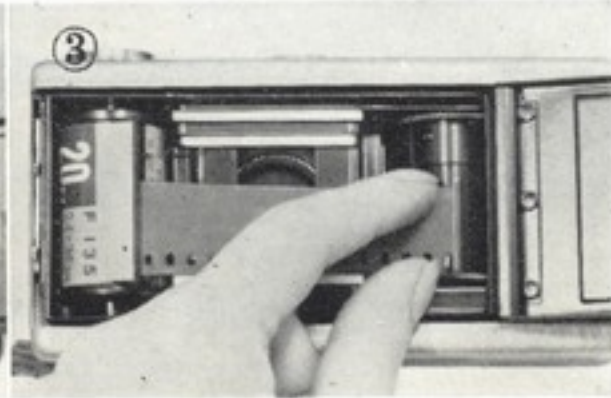
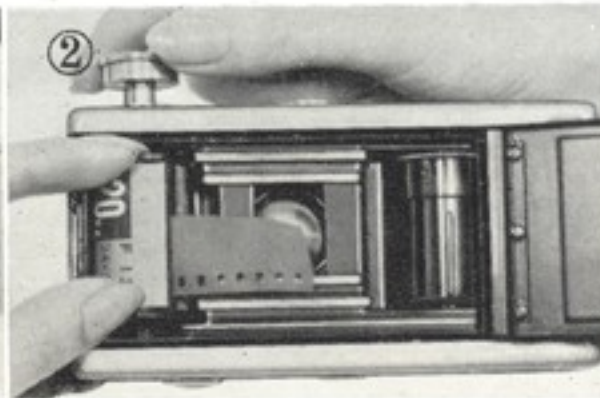
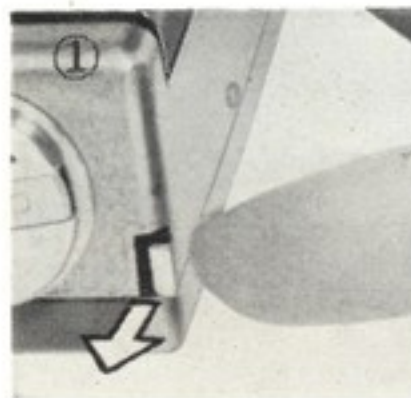


フィルムの 入れ方



- ① 裏蓋開閉桿を指先で軽く引くと止め金はずれて裏蓋が開きます。
- ② 次に、巻戻しクランクを持って引き上げ、フィルムパトローネを装填してから、再び巻戻しクランクを元の位置まで押し下げて、パトローネを安定させます。

- ③ フィルムパトローネからフィルムを引き出し、巻取りスプールにフィルムの先端を曲らないようしっかりと差し込みます。この差し込みが不完全だと、巻取りに無理が生じたりスプールからフィルムがはずれたりすることがあります。ご注意ください。

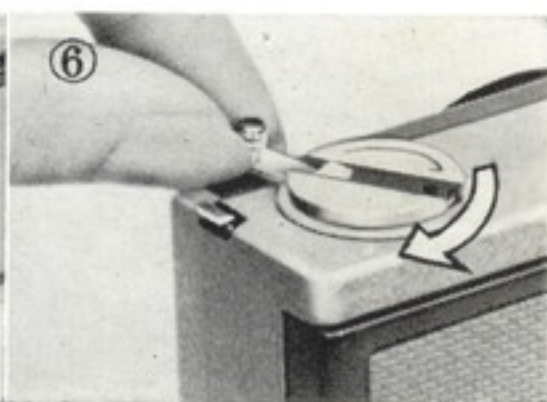
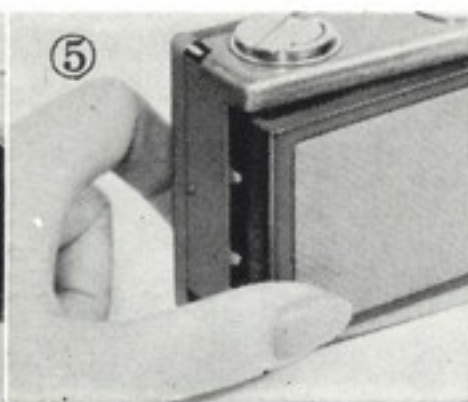
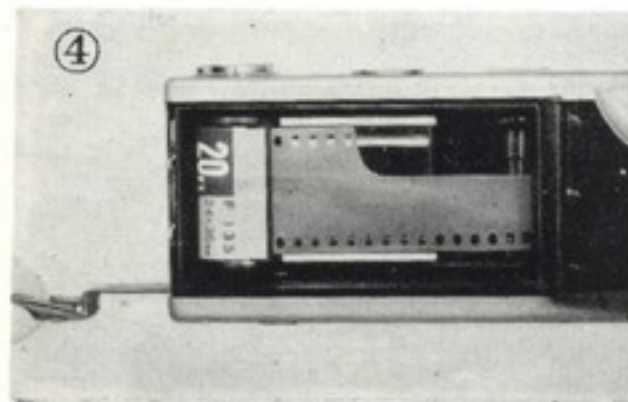


カメラにフィルムを入れる時は、なるべく直射光下をさけて、日陰を選んで行なってください

④ スプールにフィルムを差し込んだら、巻上げ用引き革を軽く引いて、フィルムが正しく送られるかどうかたしかめながら、フィルムをスプールに巻つけます。

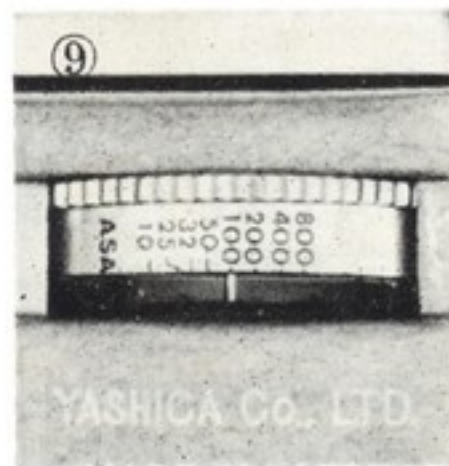
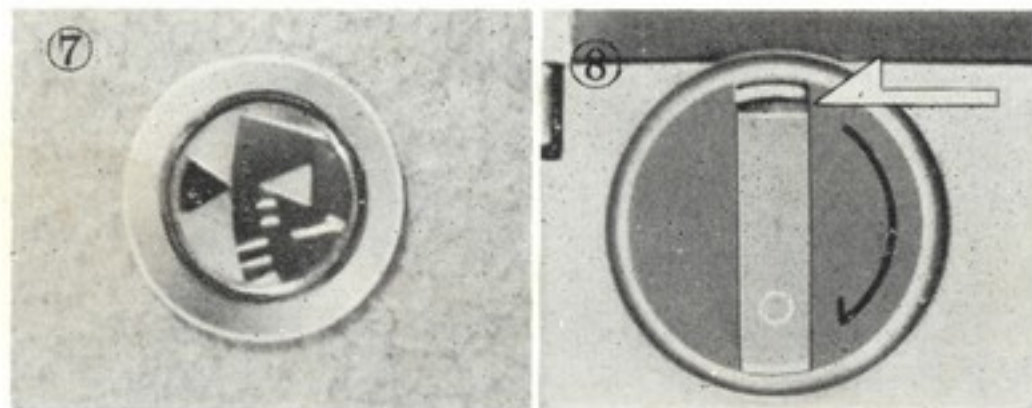
⑤ 以上の操作がすんだら、指先で軽く押して裏蓋を閉めます。

⑥ 裏蓋を閉めたら、巻戻しクランクを起し、クランクが止まるまで巻戻し矢印方向に軽く廻して、フィルムのゆるみをなくしておきます。なお、これは巻戻し操作ではありませんから、巻戻し用押しボタンを押す必要はありません。



フィルムの入れ方

- ⑦ 裏蓋を閉めると、フィルム枚数計は自動的にスタートの位置になっていますから、シャッターボタンを押して巻上げレバーを引いて空写しの操作を繰り返して、指標に1がでるまで行ないます。ここから撮影を始めてください。
- ⑧ フィルムを巻取る時、巻戻しクラックのところにあるフィルム送り標示リングが廻っていれば正しく巻取られているのです。



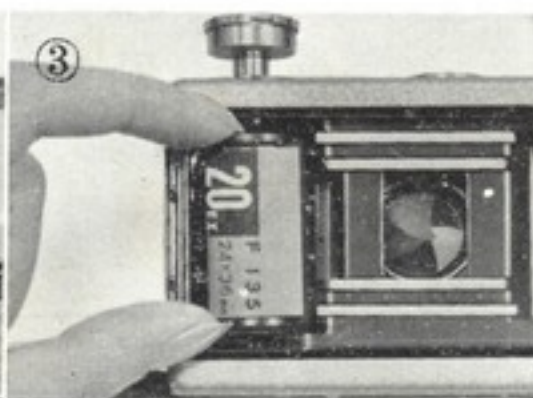
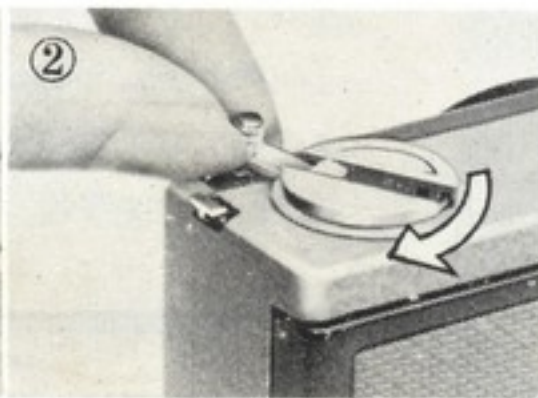
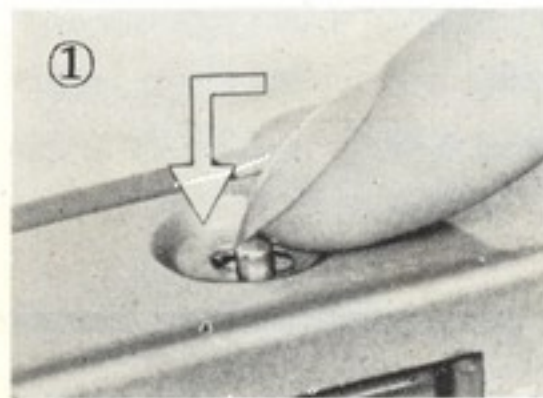
- ⑨ フィルムを入れたら露出計の裏面にあるASA感度リングを廻して使用フィルムの感度に合わせることを忘れぬようにしてください

フィルムを 巻戻すには

撮影が終わったら、フィルムをもとの
パトローネへ巻戻さねばなりません

① カメラ底部の巻戻し切替えボタンを、写真のように反対方向に十分
寄せてから押します。反対方向にし
っかり寄せないで押すと、巻取りス
プールがフリーにならず、巻戻せな
いことがあります。

② ボタンを押し続けながら、巻戻
しクランクを起して矢印方向に廻し
ます。最後にちょっと抵抗を感じま
すが、かまわず巻き、クランクが軽
くなった所で巻くのをやめて…③裏
蓋を開きパトローネをとり出します



上達のための

7章

■ラピードの使い方を讀まれて、撮影に必要なテクニックはすでにお解りになったことと思います。ここではその腕前をさらにみがくためのコツをお話しします

第1章 カメラブレはラピードの敵

ラピードは小型カメラですから、二眼レフや35ミリ以上にカメラブレには注意してください。もちろんラピードのシャッターボタンは押しやすいデザインでしかも軽く押せますが、撮影に夢中になるとついカメラ保持がおろそかになったりシャッターを押す指先に必要以上に力が入ったりしがちですから、くれぐれもご注意ください。

第2章 カメラの保持は正確に

ラピードは自由自在な角度から、しかもすばやく被写体をねらえるカメラですが、自由なアングルを楽しむあまり、小さな画面に斜めに写して、みにくい写真を作ってしまったのでは困ります。縦または横の位置で正しく被写体をとらえるために、カメラが傾むかないよう常に正確に保持してください。

第3章 ファインダーいっぱい to 構図を

18×24ミリ判（35ミリ判の半サイズ）ではできるだけトリミングしなくてもすむよう撮影することが必要です。常にファインダーいっぱい to 構図し、不要なものは撮影の時から除いてしまうように心掛けて下さい。



第4章 盗み撮りのカンを養うこと

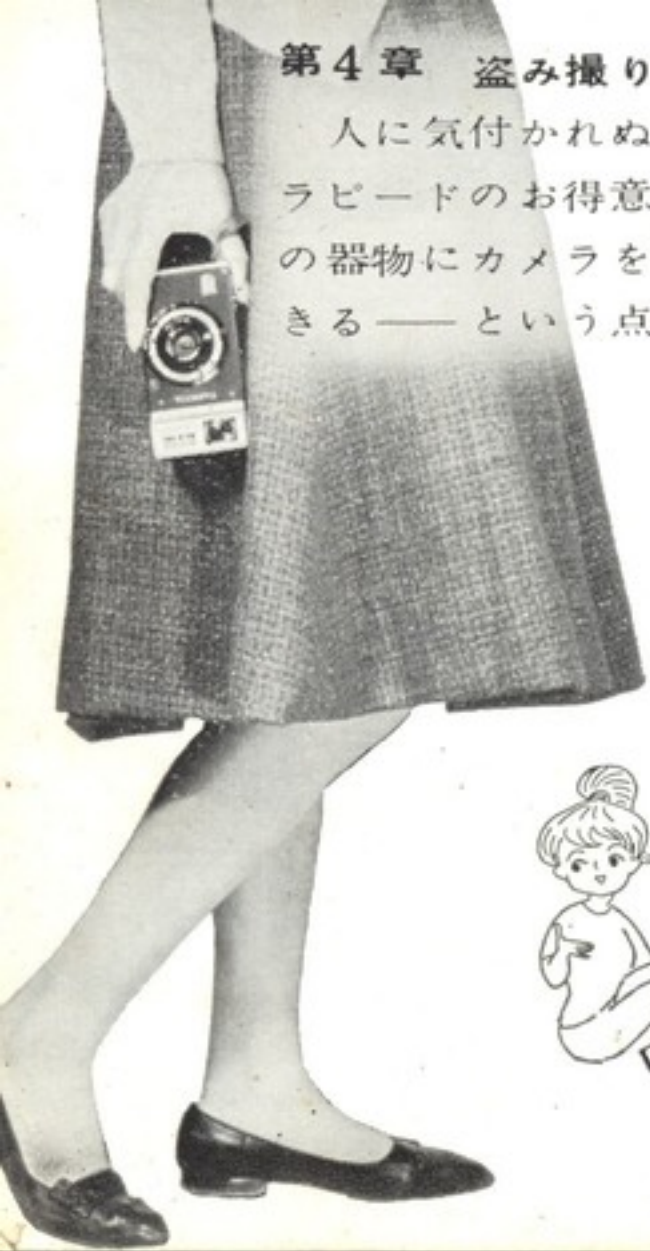
人に気付かれぬよう近づいて、瞬間の表情や姿態をとらえる盗み撮りはラピードのお得意です。この場合ファインダーを覗かずに、体の一部や他の器物にカメラを固定し、この位置からだ相手この部分がキャッチできる——という点を充分研究し、盗み撮りのカンを会得してください。

第5章 絞り是可以るだけ深くすること

ラピードには、目測で行なう焦点調節リングがついていますが、絞りを可以るだけ深く絞って撮影すれば焦点深度が深くなり、より鮮鋭な画面が得られます。

第6章 動態をスナップするには

動きの速いものをとらえるには被写体との距離、被写体のスピード、運動方向、の三要素を考えてシャッター速度をきめます。遅いシャッターで被写体をブラすとか、流し撮りでバックを流す等の手法があります



第7章 その他の撮影では

ラビードの画面は小さいので(35ミリのハーフサイズ)、ポートレートやスナップ等では、できるだけ被写体に接近して写すのが、効果的な写真を得るコツです。ことに、記念撮影等では、できるだけバックを省略し人物をファインダーのフレームいっぱいにもとらえるとよいでしょう。

■カラー撮影も自由に楽しめる

ラビードではカラー撮影も自由自在に、しかも経済的に楽しむことができます。出来上がったカラースライドは、ヤシカオートスライドプロジェクターでご鑑賞ください



ヤシカオートスライド

¥ 18,500



旅行やピクニックなどでは、携帯用のレジャーバッグにラビード・補充フィルムを入れてお持ちください。しゃれたアクセサリーにもなるバッグです。

- 専用フィルター
ラピードには専
用フィルターと
してネジ込み24
mmのY 2・UV
があります。
- フードは、カブ
セ25.5mmのもの
を使用してくだ
さい。

ヤシノンF 2.8 28mm 被写界深度表

早撮りやスナップ撮影をする時には、被写界深度
目盛を利用すると楽に撮影を行うことができます

絞り F数	2.8	4	5.6	8	11	16	22
0.8 (C)	0.75 0.85	0.74 0.88	0.71 0.91	0.68 0.97	0.65 1.06	0.60 1.25	0.55 1.59
1	0.93 1.09	0.90 1.13	0.87 1.19	0.82 1.30	0.77 1.46	0.70 1.86	0.63 2.79
1.5	1.34 1.71	1.28 1.82	1.21 2.00	1.11 2.33	1.02 2.95	0.89 5.40	0.78 ∞
2 (P)	1.72 2.40	1.62 2.63	1.50 3.02	1.36 3.88	1.22 6.05	1.04 11.3	0.88 ∞
3	2.39 4.03	2.20 4.74	1.99 6.19	1.74 11.5	1.51 ∞	1.24 ∞	1.02 ∞
5	3.50 8.85	3.10 13.2	2.69 40.1	2.25 ∞	1.88 ∞	1.47 ∞	1.17 ∞
∞	11.4 ∞	7.97 ∞	5.71 ∞	4.01 ∞	2.93 ∞	2.03 ∞	1.49 ∞

▶こんな点にも気をつけましょう◀

- カメラは精密な機械ですから、機構の正しい操作に早くなれて、どんな時でも手早く正確に操作できるようにカメラを十分使いこなしてください。
- 露出計は勿論、カメラにとって絶対に注意して頂きたいことは、①ショックを与えないこと、乱暴に取扱わないこと、②湿気を与えないこと、③埃をさけること。カメラをしまっておく時にはビニールの袋などに入れて、湿気埃から守ってください。④高熱をさけること、露出計は特に真夏の海岸の砂の上とか、暖炉の上など直接強い熱を受けやすい所にはおかないでください

▶万一の故障について◀

ヤシカ製品は、厳重な検査を経て出荷されますから故障の心配はありません。しかし、輸送中など不測の事態で故障が起ったり万一使用中に故障があった時は、下記へお送りくだされば責任をもって修理いたします。



株式会社 ヤシカ

本 社	東 京・日 本 橋 室 町 1 ~ 8	電 話 (24)	4161 1346
大阪出張所	大 阪・南 区 長 堀 橋 筋 2 の 34 の 1	電 話 (75)	3668
名古屋出張所	名 古 屋・中 区 東 袋 町 3 ~ 2 東 袋 町 ビル 内	電 話 (97)	5650
九州出張所	福 岡・天 神 町 55 福 岡 証 券 ビル 内	電 話 (57)	4092
北海道出張所	札 幌・南 三 条 西 10 の 1002 杉 山 ビル 内	電 話 (4)	3449

本 社 駐 京 都 池 袋 区 神 宮 道 2 - 31